

即興型学習研究会 '16.5.8@京都・伏見 午後の部 by 松田裕樹(まつぞう)

質問・感想はこちらへ⇒<https://www.facebook.com/matsudah> matsudah@osaka.email.ne.jp

イメージ・シアター@「即興型学習に興味のある人達」のコミュニティ・バージョン

◆松田のワークショップ的バックグラウンド

- ・ フィリピン教育演劇協会(PETA)などの「民衆演劇」('97年に体験)
- ・ ブラジルのアウグスト・ボアール発祥の「被抑圧者の演劇」(←フレイレの「被抑圧者の教育学」)
('99年カナダ・バンクーバーで、これを基盤にしたものを体験 ⇒活動のベースに)

◆「被抑圧者の演劇」の特徴

- ・ 自分たちを取り巻く現状、特に「課題」を知る(意識化)
- ・ どうすれば自分たちの力で現状を変えて、望ましい状況の実現に近づいていけるか探る
- ・ 個々人の課題が共有された「コミュニティ」の課題や望ましい状況について取り扱う

◆インプロ「=フィクションの世界で遊ぶ(それでもリアルな自分がにじみ出てくる)」と対比すると・・・

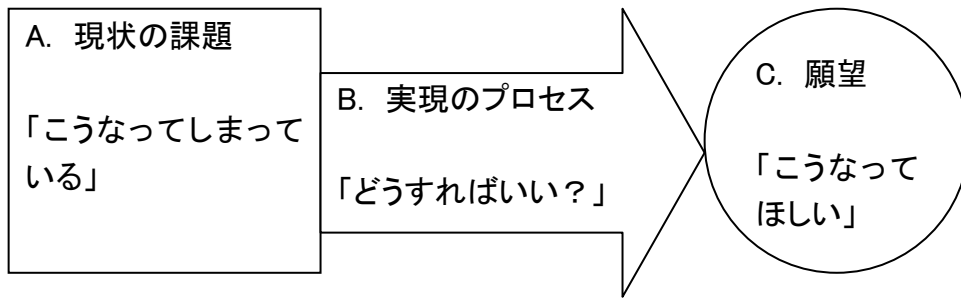
- ・ より「リアル」寄りなことを表現する。 ⇒ 気づきを、より直接的に活かせる可能性
- ・ それでも自分の視点・立場を離れて客観視したりいろんな立場を体感したり、現実を離れたりすることで得られる気づきも大きい ⇒ 自分の枠組みを越えた発想につながるのでは？

◆「被抑圧者の演劇」の主な手法

- ・ イメージ・シアター(彫像演劇)
インプロでいうところの「静止画」で
・ 現状の課題 ・ 願望(望ましい状況) ・ 現状を変えて願望を実現するプロセス 等を表現
⇒ 静止画から「場面展開」させて、より理解を深める
- ・ フォーラムシアター(討論劇) 課題が解決しないまま終わる劇を用意しておく
⇒ 観客が、登場人物に成り代わって舞台上がり、解決策を実演しながら探る
(他の役者は「現状維持」を目指すので簡単には変えさせてくれない)
- ・ 見えない演劇 (おっかなくて、やりませんけど)
街角や電車内などの公共空間であらかじめ用意しておいた即興劇を展開して、たまたまその場に居合わせた人達を、劇とは気づかれないように巻き込み、「現状の課題」について考えてもらう

◆イメージ・シアターの枠組み

3つの場面を静止画で表現しながら、現状を知り、自分たちが共有する願望を知り、変えていく道筋を探っていく



◇仮テーマ(提案):「即興型学習に興味のある人達」のコミュニティの現状の課題と願望

※本来は自分たちで「何が課題か」または「何を望んでいるのか」探っていくところからスタート

まず、A の場面 or C の場面からスタートする

(時間があれば A と C を表現した後、B を表現する。時間の都合上今日は AorC+場面展開だけ)

⇒A からスタートする場合の 2 パターン(仮説)

★A1 現状の学習や教育の現場にはこういう課題がある

B だから即興型学習が必要！ (即興型学習＝解決策)

C 即興型学習によって、こうなってほしい

★A2 即興型学習を進めていきたいのに、進めていく上でこういう課題がある

(※すでに進めようとしている or 進めている人限定)

B どうすればいい？

C 即興型学習によって、こうなってほしい

⇒★C からスタートする場合

A・B はおいといて

C 即興型学習によってこうなってほしい をまず表現

◆静止画からの場面展開・・・観客参加型で展開

・その静止画で一番共感するキャラクターはどれ？ 観客が同じポーズ + 想像して一声

・その場面に他にいそうなキャラクターは？ 観客がポーズで表現+想像して一声

・コマ送りアニメーション 各キャラクターが動きたい方向へ少しずつ動く

(お互い影響しあうので、動きの中で「動きたい方向」も変わってくる)

・観客にポーズをコピーしてもらってコマ送りアニメーション ⇒ 言葉で説明を受けないまま、自分なりの解釈で感じるままに動いてもらう (「作者」の解釈とズれることも当然多い)

観客の解釈も作者とズれることも多い

でもそれを「間違い」ととらえるのではなく、ズレを楽しみつつ、「解釈の幅を広げてくれるもの」「未知の可能性をもたらしてくれるもの」として活かしていく